

平成29年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成29年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 サメガレイ

学名 *Clidoderma asperrium*

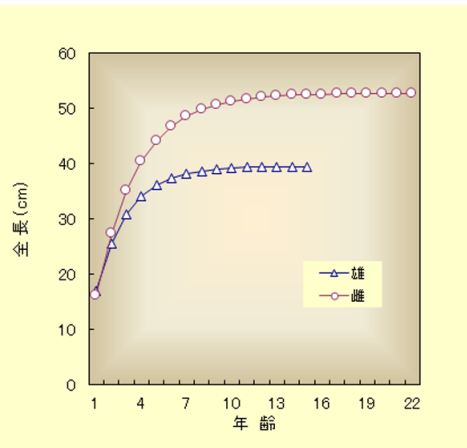
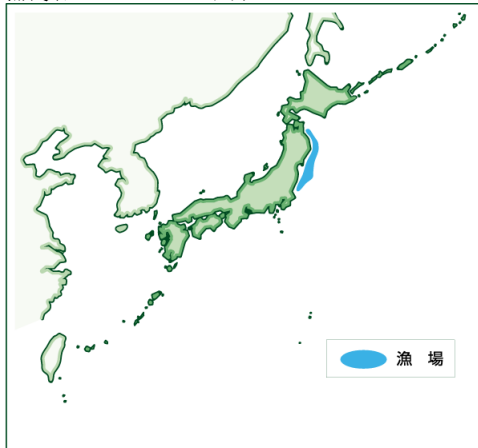
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命： 雄15歳、雌22歳
成熟開始年齢： 雄2歳（一部）、3歳（ほぼ100%）、雌3歳（一部）、4歳（ほぼ100%）
産卵期・産卵場： 1～2月、水深600～900mの深海域
食性： クモヒトデ類
捕食者： 不明

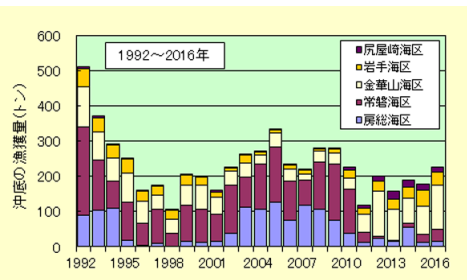
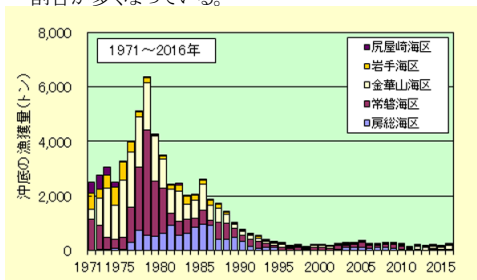


漁業の特徴

主に沖底びき網(沖底)により漁獲される。小型底びき網や刺網等でも漁獲されるが、これらの漁獲量は極めて少ない。1970年代前半には尻屋崎・岩手海区でも比較的多く漁獲されていたが、その後漁場は南下し、金華山海区以南(金華山・常磐・房総海区)での漁獲割合が多くなった。

漁獲の動向

2016年の全漁業種による漁獲量は261トンであった。沖底による漁獲量は、1978年の6,329トンピークに減少し、1998年には過去最低の108トンとなった。その後、やや増加し、2002～2010年は219～335トンで推移した。2011年には東日本大震災(震災)の影響で漁獲量は118トンに減少したが、2016年の漁獲量は225トン(暫定値)であった。海区別では、震災前は常磐・房総海区の漁獲量が大部分を占めていたが、現在は金華山海区での漁獲量が占める割合が多くなっている。

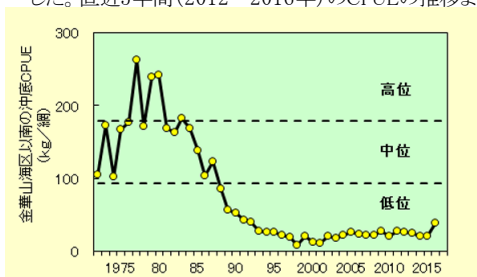


資源評価法

沖底の主要な漁場である金華山海区以南(金華山・常磐・房総海区)では単一の漁法(トロール)で操業が行われているため、金華山海区以南の沖底による単位努力量当たり漁獲量(CPUE)の推移を用いて資源状態を判断した。

資源状態

金華山海区以南の沖底によるサメガレイのCPUEは、1978年をピークに減少し、1990年代半ば以降は低い水準で推移している。2015年までの4年間はCPUEが減少していたが、2016年のCPUEは増加した。資源水準の区分は、1972年～2016年のCPUEの最大値と最小値の間を3等分し、上から高位、中位、低位とし、2016年のCPUEより水準は低位と判断した。直近5年間(2012～2016年)のCPUEの推移より動向は横ばいと判断した。



管理方策

資源が低位水準にあるため、漁獲を抑えて資源を増加させることを管理目標とし、2018年ABCを算定した。なお、産卵期～索餌期に局所的に集群したサメガレイの産卵親魚を集中的に漁獲していることから、このような漁獲を抑えて親魚量を確保する必要がある。

管理基準	Target/Limit	2018年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・1.31	Target	160	—	—
	Limit	200	—	—

- Limitは管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量、Targetは資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大が期待される漁獲量
- $ABC_{target} = \alpha \times ABC_{limit}$ とし、係数 α には標準値0.8を用いた
- ABC算定のための基本規則2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算した
- δ_1 はCaveを用いる場合の低位水準の推奨値である0.7とした
- γ_1 は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算し、 k は係数(標準値の1.0)、 b (8.356)と l (27.1) は金華山海区以南の沖底CPUEの傾きと平均値(直近3年間(2014～2016年))である
- Cave3-yrは2014～2016年の平均漁獲量
- ABCは10トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 主漁場である金華山・常磐・房総海区の沖底CPUEから資源状態を判断した
- 資源水準は低位、動向は横ばい

管理方策のまとめ

- 漁獲を抑えて資源を増加させることを管理目標として2018年ABCを算定した
- 産卵期～索餌期に集中的に漁獲されていることから、このような漁獲を抑え、産卵親魚を確保することが必要

執筆者: 鈴木勇人・服部 努・成松庸二・柴田泰宙・森川英祐

資源評価は毎年更新されます。